

平成29年度 長野市 P T A 連合会

第 2 回単位 P T A 保護者代表会

テーマ「活気ある学級 P T A について考えよう～ P T A は子ども達の応援団～」

第2回単位PTA保護者代表者会 分散会

平成30年2月3日土曜日に、第2回保護者代表者会を開催いたしました。
長野市PTA連合会 大矢会長の講話後、1テーブル8名程の10グループに分かれ、約70分間の分散会を行いました。

「**活気ある学級PTAについて考えよう～PTAは子ども達の応援団～**」をテーマとし、
下記の4つの段階を踏みながら話し合いを行いました。

1. 学級PTA（懇談会）の現状
2. 学級PTA運営の工夫
3. 改善に向けた取り組み
4. 「和ごころ」ある活発な学級PTAとは？



※「和ごころ」について

『和ごころ』 学び合い、支え合い、育ち合う

～無限に広がる子ども達の可能性を信じて 共に育もう輝く未来を～

(平成29年度 長野市PTA連合会 活動テーマ)



◎子どもを中心に置いて、先生・保護者・地域の皆さんが一体となって子育てを支え合い、温もりある大きな輪【和】の中で子ども達が安心して育つ環境づくり。

◎PTA活動への参加を通じて大人同士も学び合い、子ども達の未来に向けて一緒に育ち合う。

◎学校・家庭・地域の“しなやかな横のつながり”。

そうした取り組みを「和ごころ」という言葉で表現いたしました。

各グループの意見をまとめましたので、活動の参考にご活用ください。



グループ①（中学校グループ）

1. 学級PTA(懇談会)の現状

- ・クラスの半数ぐらいの方が参加している、10～15名ぐらい。
- ・参加者は決まっていて役員+5名程度で10名ぐらい。
- ・参観後の懇談会では年度最初と最後の回が参加者が多い。他はやはり少ない。
役員にならないと学校に関わる機会も少ない。

学級PTAが行っていること

(学級懇談会)

- ・内容は子どもの近況報告。
- ・先生のお話。
- ・3年生なので先生との話を中心。
- ・進路などの話が聞きたいので特にこれ以上を求めてもいない。

2. 学級PTA運営の工夫

- ・学級会長によるが、お菓子を持参している方もいる。

3. 改善に向けた取り組み

- ・問題が起きれば必然と集まる。
- ・中学校はエリアが広がるので、全員が集まることは考えづらい。
- ・各研修会で得た情報を広く共有していくことで、PTA活動への理解が深まるのでは？
- ・クラスの雰囲気づくり:参加者を増やす←周りで声を掛け合う←情報共有
- ・役員やってみたら楽しかったと口コミする。
- ・改善とは、そもそも何をもって善とするのか？PTA会員が何を求めているかによると思う。
- ・人前で話すのが苦手だからテーマを決めておいてほしい。
- ・懇談会は毎回やるのではなく、年に1～2回にしてもいい。

4. 「和ごころ」ある活発な学級PTAとは

- ・理想であるが、保護者もそこまでは求めているのでは・・・。
- ・参加・不参加関係なく、来てもらった方がよかったと思える会にできれば・・・。
- ・学級PTAの活性化は理想ではありますが、それぞれの目標や目的が違うので今のままでもいい。
- ・役員をやってみて初めて仕組みや活動の内容がわかったので、今後も機会があれば参加してみたいと思う。
- ・研修会や講演会に出席するだけでなく、どんなことをしたかと報告する場面を作ったほうがいいと思いました。

グループ②（中学校グループ）

1. 学級PTA(懇談会)の現状

- ・参加者は一桁、参観日も3～5人。いつも同じ人。
- ・参加者がとにかく少ない。
- ・行事などの説明があるときだけ参加者がいる。
- ・来ない人はずっと来ない。
- ・お父さんの参加者はほぼゼロ。
- ・ほぼみんな参加。(小規模な学校)
- ・飲み会で交流すると、次からPTAに参加しやすい。
- ・学年集会は行事の説明があり参加するが、学級になると帰ってしまう。
- ・学年集会を優先。学級はその次という温度差がある。
- ・学級PTAの内容は、先生からのお知らせのみ。
- ・小学校は集まりがよかった。中学校は少ない。
- ・先生達に余裕がなく、資料など頼めない。

2. 学級PTA運営の工夫

3. 改善に向けた取り組み

- ・何かをしてまで参加者を増やす必要があるか？(子どもが中学生になると、長時間働くお母さんが増える)
- ・共働きが多くなり、参観日にも来られない。参加率上げる取り組みは難しい。
- ・先生が学級PTAに協力的でないと、参加率が上がらない。
- ・不登校のお子さんの親が保護者役員で参加。話すきっかけができ、お子さんも少しずつ学校に来るようになった。
- ・クラスでスライドショー。
- ・親がコミュニケーションとれていると参加しやすい。
- ・先生から、クラスの問題点を発信してほしい。
- ・同じ価値観で話ができると参加しやすい。
- ・テーマを決めて小グループでワークショップ形式でお茶を飲みながら行う。
- ・PTA新聞を学級PTAのテーマにした。

4. 「和ごころ」ある学級PTAとは

- ・先生とコミュニケーションを図ると参加者が増える。
- ・授業を親が受けてみる。子どもの気持ちを理解し、先生の様子もわかれば参加したくなるかも。
- ・ワークショップ形式で行う。
- ・茶話会。
- ・楽に楽しく参加できるPTA。負担を減らすため、やめる勇気も大切。

グループ③（中学校グループ）

1. 学級PTA(懇談会)の現状

- ・役員の他、決まったメンバーしか来ない。
- ・1、2年生時より、3年生の方が出席者が多い。
- ・3年生は進路や受験についての話が多い。
- ・クラスに何か問題がある時は参加人数が増える傾向があった。
- ・学年PTAの後に学級PTAがあるので時間が足りない。
- ・参加者はほぼ毎回一緒。
- ・参観日の日は懇談会に出るものという流れができていますので、ほぼ全員参加する。
- ・学級PTAは年6回開催している。
- ・学年PTAでは学校行事、学習について先生から話があります。
- ・クラスによって参加人数に差がある。担任の先生との距離も関係があるのかも。
- ・一言あいさつ等を言うのが毎回気が重いという方が何人かいた。
- ・学年PTA、学級PTAとも先生からの伝達事項が多いが、ほぼ皆参加している。
- ・学級懇談会は母親の参加。父親同士の繋がりが少ない？
- ・兄弟関係等でゆっくり参加できない学年がある。

2. 学級PTA運営の工夫

- ・情報モラル研修会があった時、学級PTAでスマートフォン等の所持についての意見交換をした。
- ・中3でも、親子レクリエーション等のふれあい活動の実施は親子とも楽しかった。

3. 改善に向けた取り組み

- ・少子化で人手不足の為、今後は小中PTAでの連携も考えるといい。
- ・学校と地域連携の活動に、親も参加していくと一緒に楽しめつながりができるのではないかな。
- ・親の様子も年々変わってきているので、慣例となっているものを再検討することも大切ではないかな。

4. 「和ごころ」ある活発な学級PTAとは

- ・小規模校ゆえの子どもや親同士の距離の近さが大規模校からすればうらやましい。
小規模校にある距離の近さがPTAにあると楽しいものができるのでは。

グループ④ (小学校グループ)

1. 学級PTA(懇談会)の現状

- ・参加する人がだいたい決まっている。
- ・先生の話聞くだけの会になっている。
- ・出席率は良い。(家庭数が少ないので、1クラス3名などの時もある)
- ・学級会長が連絡事項を確認するだけで終わる。

学級PTAが行っていること

- ・親子レクリエーション
- ・びんずる参加
- ・給食試食会
- ・茶話会
- ・謝恩会
- ・キッズランへの参加

2. 学級PTA運営の工夫

- ・学級会長(保護者委員)と先生が前もって話し合い、テーマを設定してくれている。
- ・名札を用意している。
- ・保護者の方にも図書館開放を行っている。
- ・おやじの会がある。

3. 改善に向けた取り組み

- ・話題を作っておく。
- ・毎月授業参観、学級懇談会があるので回数が減れば参加者も増えると思う。
- ・先生の話はお願いした時だけにして、役員で内容を決めて進める。

4. 「和ごころ」ある活発な学級PTAとは

- ・クラスの問題や取り組み(頑張ろうとしている事)等を話題にしていく。

グループ⑤（小学校グループ）

1. 学級PTA(懇談会)の現状

- ・学級懇談会への出席率は良いが、兄弟関係で集中して参加できず、はしごをしてしまう人がいる。
- ・学級会長の自主性で行っている。
- ・学校の様子を担当の先生から話してもらい、各家庭での悩みや近況を共有し合う。
- ・保護者と先生の懇談会で新睦が図られている。
- ・参加者が決まっている。時間内に終わらない。先生の話が2、3分で参加率は悪い。
- ・参観日はお父さんも見かけるが、懇談会では見ない。

2. 学級PTAの工夫

- ・年1回、各クラスで親子レクリエーションを開催している。
- ・学級会長と担任の先生とで内容を話し合い、お便りを出す。

3. 改善に向けた取り組み

- ・運営マニュアル。
- ・体験型にしてみる。
- ・毎回テーマを決める。
- ・おやじの会。(父親参観)
- ・子どもも残り、親子参加という方法。

4. 「和ごころ」ある活発な学級PTAとは

- ・先生と一緒に学級懇談会作り。
- ・働いてる方が多いので負担軽減を図り、お菓子やお茶など出し合って和気あいあいの場づくり。
- ・学級会費を使い、お茶やお菓子を出し集まりやすくする。

グループ⑥（小学校グループ）

1. 学級PTA(懇談会)の現状

- ・参加者が少ない。テーマの設定はない。話しづらい。
- ・「一人ひとこと」だと話しづらいかな・・・
- ・話し合う内容が決まっていないので、毎回子どもの最近の様子を伝えあっているのみ。
- ・内容のマンネリ化。雰囲気の硬さを感じる。
- ・参加はできる限りでと思っている。クラスでは学級懇談会后、個別に先生と話したい方が多いように感じる。
- ・(保護者の)時間がない。予定をずらしてまで参加するのは違う気がする。
- ・小規模校なので参加率は高い。少人数なので新しいことを始めるのは難しいかも。
- ・懇親会や親子レクリエーションの時は参加率がとても良い。他は・・・

2. 学級PTA運営の工夫

- ・(先生と)父親の飲み会は、父親が学校・クラスの子も達に興味をもつようになった。

3. 改善に向けた取り組み

- ・有名人の講話があるといい！
- ・子どもと一緒に親子レクリエーション。
- ・お茶でも飲みながら、楽しく話をする。
- ・前回の研修会で行ったワールドカフェは面白かったし、短時間でたくさん話ができた。
参加者が何人かわからない中でもワールドカフェができればいいなと思う。
- ・子どもと親と先生とで参加する行事。親も子も楽しめる。
- ・お父さんも先生も巻き込む。子どもも！
- ・クラスの団結を深めるための何かを。
- ・学校の活動に保護者も関わると、現状がわかっていいと思う。

4. 「和ごころ」ある活発な学級PTAとは

- ・楽しめること。
- ・楽しいと人が集まる！楽しい会ができればいい。
- ・腹を割って話せるような雰囲気。
- ・笑顔で終われること。

グループ⑦ (小学校グループ)

1. 学級PTA(懇談会)の現状

(参加者に関することなど)

- ・ほぼ全員参加、男性参加者はいない。
- ・おそらくほぼ全員、小4のクラスはお父さんも1人出席しています。
- ・クラスの半分以下。男性は3人位参加の時もありましたが、いつもはほぼ女性のみ。
- ・現状、参加者少なめ(10名以下)、男性参加者はおそらくいない。
- ・参加者数15人前後、半分くらい。男性の参加者1人。
- ・31人中、10人前後。男性参加者はいないが父子家庭の方がたまに参加。
- ・参加者数少ない、男性参加者はいない。

(内容に関すること)

- ・(単位PTAの)父親母親委員会のテーマ「親として今出来ること・・・」「うちの子のここがすごいんです！」等、他の方の意見など聞きたいこと。
- ・テーマは学年毎に役員が決める。(ゲーム、お手伝いなど) テーマは当日に発表。
- ・先生から親へ、普段の生活の様子との報告になっている。
- ・ほぼ先生からのお話なのでテーマを決めて話していない。以前は年度初めにクラステーマを決めていた。
- ・テーマはない。先生からの学校の様子とPTAからの連絡で終わります。
- ・テーマはない。先生からの学校生活の様子。今後の予定を先生から話してもらう。

学級PTAが行っていること

- ・年に一度、懇親会。
 - ・親子レクリエーション、お米を使ってとっかん作り。軽トラ市へ参加。
 - ・今年度の親子レクリエーションで、おばけ屋敷とビンゴゲームとカレー作りをしました。
 - ・5年生が親子でもちつきをやりました。
- A小
- ・親子レクリエーション、参観日を利用して工作や学年合同でドッジボール、給食。
 - ・学校でボランティアを募集し、スケート教室のお手伝い。
 - ・クラスにより懇親会、担任の先生は不参加。
 - ・フリーマーケット。
- B小
- ・親子レクリエーション。(綱引き、玉入れ、二人三脚、風船リレー、思い出ビンゴ、フルーツバスケット)
 - ・読み聞かせ。
 - ・給食センター見学。
 - ・茶話会。
- C小
- ・スキー、スケート教室のお手伝い。
 - ・年に一度、先生を交えての飲み会。
 - ・(学級崩壊のクラスの)授業の手伝い。
 - ・ふれあい祭の看板や小物などの製作。
- D小
- ・お父さん方のバレーボール大会1回。
 - ・親子レクリエーション、パン作り(お父さん方は炭火の番)。
 - ・飲み会は年1~2回、担任の先生を含める。
- E小
- ・クラスでの親子レクリエーションが難しいので全校で開催。ただし土、日にやるので参加は自由。

グループ⑦（小学校グループ）

2. 学級PTA運営の工夫

3. 改善に向けた取り組み

- ・ふれあい祭前や役員決め等、何か決めることがある場合はお便りを配布。
- ・保育園等お迎えがあったり用事がある時は途中退席可能。

4. 「和ごころ」ある活発な学級PTAとは

- ・来年やってみたいことをアンケートで募って学級会長会で話し合いをもつ。
- ・親同士が仲良くなれるような何か。
- ・来年に向けて、年1回はテーマ別懇談会。テーマは年度初めに募る。
- ・年に1回でもテーマ別で話し合った方がいい。事前に告知した方が人が集まるのでは。
- ・親同士で飲み会、仲良くなれば！
- ・一年間での懇談会の回数と時期を考えるといいのかも。

グループ⑧ (小学校グループ)

1. 学級PTA(懇談会)の現状

(参加者数について)

- ・小規模校は出席率ほぼ100%。
- ・1クラス30人中10人程度。
- ・30人弱のクラスだが、毎回8割程度の出席がある。
- ・父親の参加は0に等しい。(授業参観にはみえても、学級PTAへの参加はない)
- ・学級によって温度差がある。
(上の子のクラスに比べ、下の子のクラスは馴染み難く学級PTAへの参加を躊躇)

学級PTAが行っていること

- ・年に一度の親子レクリエーション
- ・イベントの準備
- ・茶話会

2. 学級PTA運営の工夫

- ・最低でも、年に一度のテーマトーク。
- ・専門職の保護者による講話等、興味深い話題。
- ・グループトーク。
- ・大きなイベントに向けて協力しないといけない。(会話のきっかけ作り)
- ・先生による「普段の子ども達の様子」のスライド上映。
- ・保護者全員が何らかの専門部に所属している為、1人1人がPTA会員という自覚、意識が高い。

3. 改善に向けた取り組み

- ・低学年児童の託児。(登録外の児童も児童館でみてもらえる、図書館でみてもらえる)
- ・学年、学級通信や保護者委員会便りで、学級PTA内容の事前お知らせ。
- ・学年、学級通信で学級PTA内容の報告。
(学級会長又は保護者委員がまとめたものを担任の先生に依頼)

4. 「和ごころ」ある学級PTAとは

- ・学校、PTA、子どもが一緒にできる行事、イベントが1つでもあれば、そこに向けて協力し自然と打ち解けられるのでは？
- ・子ども同士、親同士の関係が悩み。まずはそこから…
- ・学校任せにしない、保護者同士の横の繋がり

グループ⑨（小学校グループ）

1. 学級PTA(懇談会)の現状

(出席状況)

- ・だいたい出席される方が決まっている。
- ・出席率は7～8割。上の学年の子の懇談会にだいたい参加されるので、第2子以降の子が多いクラスは少なめ。
- ・あまり活発ではない。参加者は3分の1程度。
- ・兄弟関係があると夫婦で協力している方も。
- ・5、6年生は行事の説明があり参加者多い。3、4年生は少なめ、1、2年生はそこそこ。

(内容)

- ・毎回同じ流れで進んでいる。
- ・各クラスで内容を決める(または本部案)で話し合い。
- ・学校での様子を先生から(スライド)→最近の子どもの様子を一人ずつ言う。
- ・テーマ設定なし、通知なし。
- ・「一人ひとこと」になるといつも同じ内容になる事も多い。
- ・テーマ設定はないが少人数校のため、一人ひとりの話す時間が長いので、様々な情報交換ができています。

2. 学級PTA運営の工夫

3. 改善に向けた取り組み

(学級活動)

- ・年1回の親子レクリエーション。
- ・おやき作り。
- ・一活動、学級レクリエーション、給食、Tシャツ作り、料理、懇親会、ランチ等。
- ・クジやじゃんけんで選ばれた学級会長達の参考になるように、ワールドカフェ方式を使って話し合ってもらった。

(学級懇談会)

- ・年間を通じて、話し合うテーマを設定する。(本部案、クラス委員どちらか)
話し合った内容は、年度末にPTAから発信。
- ・懇談会のテーマを発展させるための進め方の伝達、アンケートの実施、話し合い内容のフィードバック。
- ・4月に担任の先生と役員にて顔合わせ。年間予定を立て一年間の見通しを立てる。

4. 「和ごごろ」ある活発な学級PTAとは

- ・学級役員の「やらされる感」を「やってもよいかな？」に変えられる『何か』。
- ・話してスッキリもいけれど、そこからつながるといい→テーマになる。
- ・他の家庭と比較するのではなく、みんなで子ども達と育てていく気持ちで、話し合える関係づくり。
- ・参加してよかったと思える懇談会づくり。
- ・次年度へつながるように。
- ・親子でお茶会してみたい。お茶会をしながら、子どもの様子、これからの人生の話を語りかけてみたい。
- ・テーマの設定とネタの提供、事前の準備がある程度必要か。

1. 学級PTA(懇談会)の現状

(参加者に関すること等)

- ・もともと人数が少ない学校なので、懇談会は少人数。その分、先生や少ないながらも親同士でざっくばらんに話ができ楽しいですよ！
- ・参観日が1年生～6年生まで同日なので、授業参観もクラス懇談も兄弟のクラスをまわる時間が忙しい。
- ・30人学級なのに懇談会に6人位しか来ない。参観後子どもと帰宅する保護者が多い。
- ・クラス替え直後の懇談会は半数以上が出席する。
- ・1年生の初めと6年生の参加者は比較的多いが、中学年の参加は決まったメンバーで少ない。子どもの帰宅の問題もある。
- ・参加するメンバーがいつも同じになってしまう。

(内容に関すること)

- ・事前にテーマを決めて学級だよりで参加者が増えるよう取り組んだクラスもあった。
- ・グループ毎に少人数で話したときは、話やすく大勢の前では話せないことも話してくれた保護者もいた。
- ・事前にテーマを決めておくと、話しやすい。
- ・テーマを決めていないと連絡事項だけになってしまう。
- ・一人ずつ意見を言うのが苦手な人もいる。沈黙の時間がある。

学級PTAが行っていること

- ・学級一活動、親子レクリエーション(球技大会、しめなわ、菊の栽培、親子給食、親子で食事会等)開催の有無も含め、学級代表が企画、運営。
- ・親子レクリエーションで取り組む内容が学年毎に決まっている。
(1年:七夕作り、2年:親子クスマッチ、3年:交通安全教室、4年:1/2成人式など)
- ・ボランティア活動。
- ・収穫祭。(もちつき大会)
- ・給食参観。
- ・クラス替えの前の最後の茶話会でレクリエーションをする。
- ・親向けの講習会 ・交通安全教室 ・動物のお世話

2. 学級PTA運営の工夫

3. 改善に向けた取り組み

- ・気軽に話せる懇談会、立ち話で盛り上がるような話題でも何でも、担任の先生を巻き込んで。
- ・ワークショップを取り入れる、ワールドカフェ的にテーマを決めて話し合う。
- ・話したい内容、興味のあるテーマを事前にアンケートをとる。
- ・親子での懇談会も楽しいのでは？
- ・学年で懇談会。
- ・先生からの情報が楽しみな感じなので先生にも協力してもらおう。
- ・「懇談会楽しいよ♪」とうわさを流す。

4. 「和ごころ」ある活発な学級PTAとは

- ・親子懇談会。
- ・子ども同士仲良くなるように、親同士、先生とも仲良くなれる学級PTA。
- ・学級毎の情報交換が大事なので、何でも話しができて刺激し合える学級になっていけたらと思う。
- ・役員も楽しめる、負担にならない懇談会。
- ・参加率UPしたい。懇談会、楽しい雰囲気作りアピール！リラックスして話せる場であるといい。
- ・能動的な活動を。
- ・内容、方法などあらかじめ決めておく。
- ・事前アンケート。
- ・懇談会の内容をお便りにする。